

1面 委嘱状交付式、全体会議報告
市長メッセージ、5年表彰
学校紹介 蹉跎東小学校 等

2面 会長就任挨拶
こども家庭庁の設置概要
雑感、編集後記

青少年育成指導

令和4・5年度 枚方市青少年育成指導員 委嘱状交付式・全体会議が開催されました

令和4年6月5日(日)午前10時から輝きプラザきらら7階たまゆらいベントホール(大研修室)にて枚方市青少年育成指導員委嘱状交付式・全体会議が開催されました。90名が出席し青少年育成指導員として伏見市長から委嘱を受けました。(市全体で361名)

また、感謝状贈呈者として8名の方々が表彰されました。

山田校区 坂本 剛



伏見枚方市長メッセージ

令和4年度・5年度の枚方市青少年育成指導員の委嘱状交付式にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

皆様には、日頃より、青少年の健全育成や安全で明るい地域の環境づくりにご尽力いただき、心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、青少年を取り巻く状況に目を向けますと、依然として、子どもが被害を受ける事件は後を絶たず、近年では、SNSの不適切な利用による子どもへの犯罪被害などの問題が複雑化、深刻化しており、子どもを安全を守ることが大きな課題となっております。

子どもを事件や事故から守り、健全で活力ある大人に育てるためには、家庭、地域、行政などが手を取り合い、社会全体で子どもたちを守っていく必要があります。

本市では、「子育て環境の充実」を重点施策の1つとしており、引き続き、青少年育成指導員の皆様にご協力いただきながら、子どもたちが明るく健全に育つまちづくりを進めていきたいと考えております。

青少年育成指導員の皆様におかれましては、長引くコロナ禍において、感染防止に努めながら、青少年の事故や非行防止のため、地域のパトロール活動のほか、「こども110番の家」の旗の設置拡大の取り組みなど、地域に根ざした活動を展開していただいているところでございます。これまで培われてきた地域でのネットワーク、活動の歴史と成果を礎として、これからも先頭に立ち、青少年の健全育成に向けた取り組みをよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、平素からのお力添えに深く感謝申し上げますとともに、皆様の今後益々のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、枚方市青少年育成指導員の委嘱にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

青少年育成指導員 5年表彰 受賞者ご紹介

樟葉校区	有岡 雅人様
春日校区	木邨 文吉様
五常校区	仙波 かず子様
高陵校区	中村 勝之様
菅原東校区	小倉 悠紀雄様
樟葉校区	清田 晃様
山之上校区	竹林 礼子様
中宮校区	野津 美恵様

学校紹介 蹉跎東小学校 第十一代校長 桐山 智巳

蹉跎東小学校は昭和53年に、蹉跎小学校より分離して創立され、本年度で45周年を迎えます。創立当初から三本杉の精神を礎に歩んできました。

校区には、一号线と京阪電鉄という交通の要所を含みながらも、春には桜が咲き誇り、学校の裏山には、緑豊かで鶯の鳴き声が響く自然に恵まれた環境の学校です。

「心豊かで 生き生き ええ顔の蹉跎東っ子」を教育目標に据え、『優しい心で学び合おう』を合言葉にして、日々の教育活動に取り組んでいます。

本校は、枚方市業務改善推進モデル校として3年目を迎え、これまでに、会議時間の削減やペーパーレス化などを始めとして、様々な観点で

の業務改善に学校を上げて取り組んできています。それにより、児童と接する時間や教材研究の時間の確保に努めてきました。

また、枚方市読書活動推進校として2年目を迎え、配置された学校司書との連携により、図書室の整備をはじめとした読書環境の充実と、授業における図書を活用を増やし、読書活動の推進に努めてきました。

一昨年度は、校区コミュニティ協議会からも、地域活動が中止となった代わりに学級文庫への寄付をしていただき、多大な協力もいただきました。特に関心を持っていただいております。

特に、今年度は、これまでの地道な活動を他に広げるべく、大阪府授業改善推進校として研究指定の下、府教委・市教委からの支援も受けて、チーム学校としての授業改善に取り組んでいます。ICTを生かしたタブレットの有効活用も意識し、講師の指導助言を受け、各学年での研究授業を行い、3学期には、全市や府内での公開も予定しています。

本校区の方々は、日常的に学校に協力的で、児童の登下校時には、多くの地域の見守りボランティアの方々や保護者の皆様に温かい心で日々支えていただいております。

その影響を受けて、校長と共に、代表委員や児童会役員の皆が、毎朝自主的に門に立ち、元気な声で「おはようございます」と明るい挨拶ができるようになっていきます。これが、児童や地域全体に広がっていくことを願っています。

以前より地域との交流も盛んでしたが、この数年は、コロナ禍での感染予防の観点から、地域行事や地域の方々との交流も限られており、一日も早く改善されることを望んでいます。

でいます。

今後も、より一層、地域、保護者、教職員、児童が一体となり、手を取り合って、心と力を合わせて、校区全体の皆さんが、「心豊かで、生き生き、ええ顔」になれるような蹉跎東小をめざして教育活動に取り組んでいきたいと思います。ご理解とご協力をお願いいたします。



令和4年度の入学式の写真

令和4・5年度の枚方市青少年育成指導員連絡協議会役員体制

会長	桜丘校区	山本 光茂
副会長(事務)	菅原東校区	小倉 悠紀雄
副会長(研修)	蹉跎校区	大東 昭次
副会長(広報)	牧野校区	仙田 俊昭
副会長(会計)	中宮校区	寺島 正彦

2年間どうぞよろしくお願いたします。

枚方市青少年育成指導員
連絡協議会会長就任挨拶
桜丘校区 山本 光茂

え、活動をしていきたいと考えております。
委員皆様を始め関係各位におかれましては、今迄以上のご協力、ご支援をお願いいたします。

2023年4月1日
こども家庭庁が設置され、こども政策が推進されます

今年4月にこども家庭庁が設置されます。何をする部署なのか、青少年育成にどのような関係があるのかについて資料を参照してまいります。

全文は内閣官房のトップページから「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針について」をお読みください。

1. はじめに
こどもや若者に関する施策（以下「こども政策」という。）については、これまで、少子化

社会対策基本法や子ども・若者育成支援推進法等に基づき、政府を挙げて、各般の施策に取り組んできた。様々な取組が着実に前に進められてきたものの、少子化、人口減少に歯止めがかからない。

こうした中、令和2年度には、児童虐待の相談対応件数や不登校、いわゆるネットいじめの件数が過去最多となり、大変痛ましいことに令和2年は約800人もの19歳以下のこどもが自殺するなど、こどもを取り巻く状況は深刻になっており、さらに、コロナ禍がこどもや若者、家庭に負の影響を与えている。

今こそ、こども政策を強力に推進し、少子化を食い止めるとともに、一人ひとりのこどものWell-beingを高め、社会の持続的発展を確保できるかの分岐点である。

常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据えて、こどもの視点で、こどもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、こどもの権利を保障し、こどもを誰一人取り残さず、健全な成長を社会全体で後押しする。そうしたこどもまんなか社会を目指すための新たな司令塔として、こども家庭庁を創設する。

以下、項目のみ列挙します
2. 今後のこども政策の基本理念
(1) こどもの視点、子育て当事者の視点に立った政策立案
(2) 全てのこどもの健やかな成長、Well-beingの向上
(3) 誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援
(4) こどもや家庭が抱える様々な複合する課題に対し、制度や組織による縦割りの壁、年齢の壁を克服した切れ目ない包括的な支援
(5) 待ちの支援から、予防的な関わりを強化するとともに、必要なこども・家庭に支援が確実に届くようプッシュ型支援、アウトリーチ型支援に転換
(6) データ・統計を活用したエビデンスに基づく政策立案、PDCAサイクル（評価・改善）
3. こども家庭庁の設置とその機能

(1) こども家庭庁の設置の必要性、目指すもの
(2) こどもまんなか社会を目指すこども家庭庁の基本姿勢
① こどもの視点、子育て当事者の視点
② 地方自治体との連携強化
③ NPOをはじめとする市民社会との積極的な対話・連携・協働
(3) 強い司令塔機能
(4) 法律・事務の移管・共管・関与
(5) 新規の政策課題や隙間事案への対応
4. こども家庭庁の体制と主な事務
① 成育部門
1) 妊娠・出産の支援、母子保健、成育医療等
2) 就学前の全てのこどもの育ちの保障
3) 相談対応や情報提供の充実、全てのこどもの居場所づくり
4) こどもの安全
② 支援部門
1) 様々な困難を抱えるこどもや家庭に対する年齢や制度の壁を克服した切れ目ない包括的支援
2) 社会的養護の充実及び自立支援
3) こどもの貧困対策、ひとり親家庭の支援
4) 障害児支援
③ 企画立案・総合調整部門
1) こどもの視点に立った政策の企画立案・総合調整
2) 必要な支援を必要な人に届けるための情報発信や広報等
3) データ・統計を活用したエビデンスに基づく政策立案と実践、評価、改善

枚方市のこども政策にも大きな影響があることでしよう。
新聞を読んでいた時、次の記事が目にとまりましたので紹介します。
頭の良さをIQ(知能指数)で表すことはよくあります。しかし、IQが将来の学歴や年収を予測するのかわ調べた研究によると、ほとんどが否定的でした。人が生きていく上で必要なのは、非認知能力です。非認知能力とは、人が直面する困難にうまく対処し乗り切る力を指し、その中身は、他者と付き合う力、自分の感情を管理する能力、目標を達成する能力からなります。この非認知能力は、幼児期から小学校低学年にかけて生活や遊びを通して育まれることが明らかにされています。
子どもが夢中になって遊んでいる時、頭が活発に働いている。遊んでいる最中に意欲や挑戦力といった生きる力（非認知能力）が育まれているのです。「遊び」とは仕事と対立するものではありません。また、「怠けること」を意味するものでもないのです。幼児にとつての「遊び」とは「自発的な活動」であり、頭と心と体が対話しながら、生き生きと働いている状態を指しています。
子どもには、「遊び」の時間が大切であり、大人がそれを見

守る心のゆとりが必要になると感じました。
【編集後記】
コロナ禍により、行事やイベントの中止や延期が相次ぎ、外出も規制されストレスも溜まる一方でしたが、今年度は制限も少し緩和されたかと思いきや、コロナ第7・8波の感染者は第6波を超える勢いになりました。そんな中、是非が問われるマスク着用での人との会話も減り、素顔を見せられず、見せることに恐怖さえ感じ、社交不安障害に陥る、醜形恐怖症になる心の方が多いと多数おられることとです。
また、小学校高学年や、中学生の思春期を迎えた子ども達が、心と体の成長期の悩み等を、友達や家族に話したり相談することができず、鬱病になる子どもも増えているようです。
私たちに出来る事の一つとして、しっかりと子ども達に向かい合い、会話や相談のつてあげたいものです。
子ども達の笑顔は人を幸せ気分にし、心を豊かにしてくれます。マスクを外し、歯の見える笑顔で、大空に歓声が響くイベント等を催す日が、早く来てほしいですね。

津田校区 大林 康二

雑感
招提校区 吉久 茂



運動の輪を広げましょう